

平成30年度第1回小谷村総合教育会議 会議録

○開催日時 平成30年8月2日(木)  
開会：午後3時00分 閉会：午後5時35分

○開催場所 小谷村役場 2階 204会議室

○出席者 小谷村長 松本 久志  
教育長 山田 光美  
教育長職務代理者 平林 哲夫  
委員 太田 明  
委員 太田 加代  
委員 村越くに子

○欠席者 なし

○職務のため出席した者 教育次長兼総務学校係長 齋藤かおり  
公民館長兼社会教育係長 矢口 浩幸  
小谷村保育園長 山田圭佐美

1 開 会

教 育 長：ただいまから平成30年度第1回小谷村総合教育会議を開催します。

2 あいさつ

村 長：お暑い中、お集まりいただきありがとうございます。

小谷村では、子育て支援として少なくとも周辺市町村よりは力を入れてきました。今後もその方向で進めていくつもりでいます。また、余談ではありますが現知事の阿部さんと話をした時、やはり一番に「学び」の体制作りをしたい。長野県の場合、大学進学となると県外の大学へ進学し卒業後は長野県に戻ってこないことが大半で、県内外の人が県内の大学へ進学し、地元に戻ってくるような「学び」の場を作りたいと言っていました。私もしっかり子どもの教育をするとともに、子どもが地元へ帰ってくるような支援をしたいと考えています。即効性のある支援はありませんが、高校・大学進学はお金がかかると聞いています。高校生も必要であれば奨学金はどんどん利用してもらいたい。奨学金の償還も地元へ戻れば最大100万円減免になりますが、もう少しなんとかならないか考えて欲しいと思います。とは言え、小谷村も人口の減少に歯止めがかからず、平成22年国勢調査では人口3,200余名が平成27年では2,900余名となり約1割減っています。その結果、地方交付税が平成29年度で8,000万円、

平成30年度で7,000万円合わせて1億5,000万円減額されています。行政の立場として、子どもたちにとって有効な手段は継続していきますが、財源は減ってきていることを知っておいてもらいたいと思います。

さて、昨日は木崎夏期大学の開講式へ参加しました。大北地区はこのような100年も続く教育に関する行事を実施している地域だということを地元にも知らせていってもらいたいと思っています。

また、この猛暑なので保育園から中学校までエアコンを設置する必要があるのではないか、現場と話し合いながら検討して欲しいと思います。ただ、過度な対応をする必要はないと思っています。来年度予算へ計上しても、夏休み中の工事では間に合いません。12月補正で春休み中に工事をするか否かまで十分検討してください。

### 3 協 議

村 長：協議に入ります。(1)平成30年度教育委員会の主要な取り組みについて事務局から説明をお願いします。

教育次長：(資料説明)

公民館長：(資料説明)

保育園長：(資料説明)

村 長：委員の皆さんにも順次質問など、お願いします。

小学校の外国語教育は先行して取り入れています。公営おたり塾があることで外国語授業に何か影響があるなど聞いていますか。

教育次長：公営おたり塾と外国語教育のカリキュラムは全く別の内容なので、外国語授業に悪影響があるとは聞いていません。なお、保育園の英会話教室にジャン先生が行っているので、小1～2年生の外国語授業にもジャン先生が入り、小学校高学年の授業にはALTのステイーブン先生が入ることで、発達段階に応じた繋がりを持たせる工夫を小学校でもらっています。

教 育 長：学習指導要領の改訂が近づき、外国語活動の時間は小学5～6年生は週2時間、3～4年生は週1時間となりますが、小谷小は先行実施ということで小1年から外国語の授業を始めています。中学校の堀内先生(英語科)には、小5～6年生の週2時間のうち、1時間はメインで授業に入ってもらっています。公営おたり塾の中学生受講生も今年は大幅に増えています。

今年度から中学生の英検受検料補助も始めましたが、まだ何人受検しているかまでつかんでいないので、またお知らせしたいと思います。理数の塾もはじめましたが、現在、高校生の受講生が5名います。保護者からは夏休みをどのように過ごさせようか考えていたので塾があり、ありがたい。との声があるようです。ただ、高校生は学校によって授業の進み具合が違ったり、学年によって理科は教科が変わるので、今後どのような体制で進めていくのが良いのか冬期講座の開設に向けて課題があります。

また、館長から報告のあったとおり、子どもの少子化はありますが、がったクラブは登録者数が増えています。毎日、全員が利用している訳ではありませんが、今後の体制作りについて検討していく必要があります。

村 長：英会話教室について保育園は全員参加。小学校は余暇を利用しての希望参加なので参加している子と、していない子で学校の外国語活動に差が出てくるのか。差が出て授業がやりにくくなるようなことはないのかな。

太田(加)委員：外国語授業で公営おたり塾に参加している子と、していない子に差があるのか知りたいです。

教育次長：学校へ様子を聞いてみたいと思います。

村 長：海外交流の参加生徒に支援が必要な生徒がいる場合には、引率者を増やすなど支援体制をしっかり作って欲しいと思います。就学支援は保護者の合意形成が必要なことは理解するが、村での支援体制にも限度があることを納得してもらわなければいけないと思います。

また、学校施設の長寿命化計画では耐震化は終わっているので大きな補強は終わっていると思います。通常の施設管理(塗装等)については、業者に確認しながら計画して欲しいと思います。

委員の皆さんからご意見やご質問はありませんか。

村越委員：先ほど園外保育の話がありましたが、先日、愛知県で児童が校外授業へ歩いて参加して命を落とすという痛ましい事故がありました。保育園では園外保育実施の基準などはありますか。

保育園長：はい。あります。

村 長：保育園は比較的涼しいですか。

保育園長：夕方になれば日陰で少し涼しくなります。ただ、日中は園庭の反射で各クラスが暑くなるので、扇風機を置いたり水分補給を促したりして対策をしています。支援センターと未満児室にエアコンがあるので、給食やお昼寝で利用することもあります。

村 長：他にご意見やご質問はございませんか。

全 委 員：なし

村 長：次に社会教育関係ですが、色々な課題が出てきているようです。例えば、古文書の保存施設等がでてきています。ふるさと応援寄付金の今後の運用調査に突然出てきたので、なぜ急に出てきたのか驚いているところです。古文書については分散して保管することも世の常で、逆に止めることもできなくて仕方がない部分もあるのではないかと。その辺も含めて、今後文化財保護委員にも検討してもらいたいと思います。

今回、図書館について全く話が出てこなかったが、現在の予算で運営は大丈夫ですか。

他に、鉱物についても糸魚川ジオパークとの連携を考えられないか。糸魚川には来馬層(恐竜)がなく、追加することを考えてもいいのではないかと考え

ています。

公民館長：糸魚川ジオパークの関係者は小谷村に直接入り、許可を得て調査を進めていて展示など実施しています。

村 長：鉱物など逆に小谷村だけで頑張ることは不可能です。市であれば鉱物や地層の研究者(学芸員)を採用することも研究することもできるので糸魚川市との連携が大事です。

公民館長：ジオパークは、観光がメインで人が入って見られるように整備しなければなりません。

村 長：ジオパークは観光だけでなく、保護もするので検討して欲しいと思います。他に蝶もそうで、小谷村は北と南の蝶が存在する。蝶以外にもマニアックな動植物(カメムシ・エビネ等)がたくさん存在しています。調査費用は予算化して、調査をして必要に応じて保護する体制を考えていく必要があると思います。

公民館長：来年は虫を調査する予定でいますが、観光の開発とのバランスが難しいと感じています。

村 長：余談ですが、今一番心配しているのは地蔵鉱山で、発掘作業が中断していて悩んでいるところです。

また、保育園の人事交流を今年度は実施できませんでしたが、来年度以降は人事交流を継続します。白馬村だけでなく、大町市、松川村でも実施しています。他市町村の様子を見てくることは大事なことなので、来年度はそのつもりでお願いします。他に何かご意見やご質問はありませんか。

全 委 員：なし。

村 長：それでは、(2)子育て支援センター建設に関する検討結果について説明をお願いします。

教 育 長：(資料説明)

せせらぎで実施している「お母さんたちの茶話会」への分散もあり、昨年度と比べ、若干ですが利用組数は減少しています。事業費が多額にならないのであれば子育て支援センターの建設も考えられますが、現状の利用状況であれば、遊戯室や保健センターの利用など運営面で工夫していけば、今のままでもいけるのではないかと。また、54プロジェクトでも施設建設を検討中なので、どうしても新設というのであれば、その議論の中で検討していくのがよいのではないかとというのが私個人の見解です。保育園長には、保育士と保護者の声をまとめてもらいましたので、そちらを紹介してください。

保育園長：まず、保育士からの意見です。

- ・広いスペースの希望もあるが、今ある施設を活用していけば良いのではないかと。
- ・これから子どもの数が少なくなるので、建設しなくても良いのではないかと。
- ・保育園内に子育て支援センターがあることで、入園前の子が保育園施設になれることができ良いと思う。
- ・保育園と隣接しているので、保護者も園の様子を見ることができ入園のイメージ

ジができ安心すると思う。

・園庭が狭く遊具の数が少ないが、塩の道公園も利用できる。

保護者からは、

・保育園と隣接していると遊戯室や園庭でも身体を動かせるので良い。

・保育園と隣接しているので、園の様子が分かり良い。

・冷暖房も完備されているので今で十分。

という意見がありました。

村 長：若いお母さんたちから、「みんなで集まる場所が欲しい。小谷には子どもを遊ばせながらケーキを食べてお茶を飲む場所がない。」との意見もあり、当初、老人の見守り施設に併設して子育て世代が集まれる場所を作ろうと思いましたが、別々の施設を建設する方向で旧保育園跡地に店を併設した子育て世代が集う施設を作ろうと考えています。老人の見守り施設は宮本橋を渡り南側へ建設予定で、敷地7,000㎡建屋2,500㎡ほど、配食サービス施設や公園、今後見守りが不要な高齢者や若者の住宅用土地が必要になった場合にも利用できる土地として確保する予定で、現在土地関係者と概略の打ち合わせを始めました。ただ、この施設と子育て支援センターは別なので、必要があれば子育て支援センターを拡張することも継続して検討して欲しいと思います。次の意見交換の内容ではありますが、今後の児童生徒の推移についての説明をお願いします。

教 育 長：(資料説明)

今年4月～7月までの母子健康手帳の発行数は5件だそうです。昨年同時期の交付が同じ5件で年間の出生者数は16名でしたので、過去の状況からしても今年も年間15名前後の赤ちゃんは期待できそうです。また、今後の小中学校の児童生徒数の推計からも急激に大幅に減少することはないとみています。

村 長：今の説明では、児童数はしばらくの間、極端に減ることは考えにくい。子育て支援センターもこのまま運営していけるということですね。ただし、お母さんたちの様々な活動が出てきているので、お母さんたちとの情報交換は続けていって欲しいと思います。「せせらぎ」も利用してもらい喜んでいるようです。サテの地下も無料で利用できます。当面、うまく調整を取りながら進めていってください。

#### 4 意見交換

村 長：(1)児童生徒の様子や今後の推移についてです。先ほども説明してもらいましたが、児童生徒の様子として支援を必要としている児童生徒数は増えそうですか。現状の体制でやっていけそうですか。

教 育 長：小中学校とも支援学級は2学級あります。

村 長：保育園の頃、発達障がいと言われても、学年が上がると解消されるケースもあるように聞きますが…。

太田(加)委員：白馬村でも支援を必要とする児童が増えてきていて、通常学級に支援員を配

置するようになってきています。小さいときにしっかり支援していないと、小5くらいで不適應の症状が出てしまったりしています。やはり、小さい頃の支援が大切だと感じています。

教育次長：小さい頃からトレーニングができると、学年が上がってから支援が減ってくる  
と聞きます。また、発達障がいではなく、グレーゾーンの児童が増えることにより、通常学級では担任が個別支援に力を入れることになり、そのことによつてクラス全体の経営に影響が出ると聞きます。

太田(加)委員：知的障害より情緒障害が増えてきていると思います。担任の先生はクラス全体をまとめたくても、支援が必要な児童がいることによりクラス全体を見ることができなくなります。学力は問題なくても、感情のコントロールができず、集団生活ができなくなってしまうことの方が問題だと思います。保護者の許可がないと支援もできないので、学年が上がってから問題が出てきてしまうよう  
です。

村越委員：小谷では保育園から専門の方が入ってくれていますよね。

保育園長：乳幼児検診から保健師、外部の専門家が関わり様子を見ているので、保育園でも引き続き支援できる体制を作っています。

太田(加)委員：学力面では問題ないのですが、情緒面が問題になってきています。

村越委員：難しいところですね。【以下、非公開】

【以下、公開】

太田(加)委員：保護者の合意が得られず支援を受けていなかった子が、小学校へ入り自分が  
集団に馴染めないことが分かり不登校になるケースもあります。

村 長：今のままの体制でいけますか。

教 育 長：支援を必要とする児童生徒が増えれば、支援員を増やす必要も出てきます。白馬はどんな様子ですか。

太田(加)委員：色々な面で支援が必要な児童が増えているので、支援員を増やしています。

村 長：今の体制のままやっていければいいのですが、子どもの数は増えなくても支援を必要とする人が増えれば、職員も増やさなければいけなくなる。そうなれば、どこからその財源を確保するか課題です。

次に、(2)生徒数の減少と集団学習への対応についてです。住民係から聞くところによると、転出もあるが転入もあるので他市町村と比べると少しはいいのかなと感じていますが、子どもの数が増えないと集団競技の経験がなく、高校へ行ってから野球やサッカーのルールを知らない、又は経験がないことで困ることが出てくるのではないかと心配しています。

教 育 長：文科省、県教委の考えは、少なくなった学校同士を集めて「ゆるスポ」と言つて、指導者を派遣するなどして支援する体制を作っています。以前は小谷も野球部が大町と合同でチームを作ったこともありましたが、今は休部となっています。国や県は生涯学習や総合型スポーツクラブで補うよう言っています。

太田(加)委員：今、高校ではクラスマッチでいくつか競技があつて、自分で選べるようにな

っているようです。

村 長：今、中学校の教育課程では野球やサッカーという競技をするようになってはいないの？

太田(加)委員：小学校では、バスケットボールやバレーボールに繋がる似た競技をやるようになっています。

村 長：小規模学校は家庭的で目が届くという利点はあるが集団競技、合奏、演劇などの経験ができなくて困るのではないか。どうやってクリアしていけばいいのか心配です。

また、将来、複式学級になる可能はあるのか。人口減少に伴い、複式学級になるようであれば山村留学を復活させればよいという村民もいます。ただし、当時の里親は高齢になり里親を実施することは難しいので、寮を運営しながら山村留学を復活させてはどうかとの意見をいただくことがあります。教育委員会の立場で、これからの小谷村はどうするか、可能性も含め検討して欲しいと思います。今すぐ結果を出すのではなく、視察等しながら数年かけて方向性を示して欲しいと考えています。

(3)教育委員から話題にしたい事項ということで、平林委員、お願いします。

平林委員：教育委員会にも課長と同等の職を設けることはできないかと言うことで、教育委員会管轄に保育園も入り、最近の子育て支援についても今まで以上に住民福祉課との連携も必要になってきます。先ごろの議会一般質問でも確か藤原議員からも提案があったと思います。課長と同等の職を設けることで、課を超えた調整などが円滑に進むのではないかと考えました。

村 長：私の考えから言わせてもらおうと、そのために教育長を行政職から上げています。他市町村の教育長は教員経験者になることが多いので、予算や折衝など行政事務に対する課長を置くことが多いです。本来なら小谷村も企画、農林、観光には課長を置くべきと思います。しかし、今までの経過があり簡単に職員を増やせないのが現状です。教育委員会としても今後組織について十分検討して欲しい事項です。

教 育 長：保育園は園長が事務経験者なので現在、事務をやってもらっていますが、子育て支援法など法律が複雑になり、管内の市町村でも係を新たに設けるところが増えていきます。小谷では保育士と事務が一緒に、事務手続きがタイミングよく動けない時もありますので今後検討が必要と考えています。

村 長：教育委員会で検討をお願いします。他に話題にしたいことはありませんか。

太田(明)委員：今、小学校から千国集落入口の三叉路までは歩道があります。千国集落内歩道の設置は難しいと思うので、せめて標識の設置はお願いしたいと思います。

村 長：設置する場所も検討が必要ですが、建設係を通じて建設事務所へ要望させます。道路改良は難しいです。他に何かありますか。

全 委 員：なし。

村 長：平林委員、台湾の打ち合わせ訪問の報告をお願いします。

平林委員：(資料報告)

村 長：二水と交流する場合は宿泊施設があり良いのですが、竹塘には宿舎がないのでホテルに宿泊することになります。その代わり近くに市場がありました。現地の生活を感じるためにも市場を見学して欲しいと思います。二水や竹塘まで行くとトイレにウォッシュレットがありません。ウォッシュレットがあることが普通の子たちには生活できるかなと心配な面もあります。

平林委員、台湾は日本の文化を受け入れたところだから、親しみやすい場所だったでしょ。

平林委員：そうですね。親しみやすかったです。

太田(加)委員：このような宿泊学習の際、必ず養護教諭が引率すると思います。そうすると学校には養護教諭が不在となり、もしも学校で何かあった時はどうするのか、課題と思います。大町市は市の保健師や看護師に不在時の対応をお願いするそうです。

平林委員：前にもそのような話が出たことありましたね。その時、小谷は小中学校が近いのでフォローし合うしかないかという話になったと思います。

村 長：役場の保健師や診療所の看護師をお願いすることも考えられます。

今年初めて交流する竹塘は色々計画をしてくれています。雨が降った場合のことは早めに決定し連絡をお願いします。本当は校外での活動より校内で生徒同士の交流が多ければもっとお互いを知ることができます。

他に何かご意見はありませんか。

全委員：なし。

村 長：以上で、今日の協議、意見交換は終了としますが、これからも子どもたち、小谷村の将来について話し合ってください、予算が必要であれば早めに話をしてください。できるだけ対応したいと思います。

教育長：以上で、平成30年度第1回小谷村総合教育会議を閉会といたします。